



パック連通信

事務局：山梨県大月市御太刀 1-2-10

No.130 2024年7月30日発行
全国牛乳パックの
再利用を考える連絡会

TEL 0554-22-3611

牛乳パック再利用運動 40年

前号に引き続き、牛乳パック再利用運動の発足当時の様子をお伝えしていきます。

牛乳パックのリサイクルルートが開かれて

丸富製紙(株)の故佐野廣彦社長からは、「牛乳パックは洗わないままでは臭いを放ち、原料として使えないので、洗って乾かして開いた状態であれば引き取りますよ。」と仰っていただきました。すでに牛乳パック 1000 枚を集めていた段階で、洗って乾かし、箱のままではかさばるため底の3辺を切って、たたんだ状態で保管していたので、「牛乳パックを資源として集めるのですから、洗って開いて乾かすことは消費者としてのマナーです。私たち消費者側でルールにして徹底します。」と平井主宰は回答し、以降牛乳パックの回収ルールとして現在に至っています。


しかしながら、実際には1枚2枚の単位を製紙メーカーが取引することはできず、市中を回って回収する小売業者→直納問屋→製紙メーカーというルートを経て、回収された牛乳パックは納められることを知りました。丸富製紙(株)に直納している(株)山田洋治商店の山田社長(現会長)は、牛乳パックの再利用運動に非常に理解を示して下さり、古紙リサイクルに疎い市民グループにいろいろと指導いただき、また相談にも乗っていただきました。まず、小売業者が回収に来てくれるには最低2tという量が必要で、牛乳パック 60,000枚相当となるため、とても集めきれぬものではないと新聞やその他の古紙と抱き合わせで2tの量の回収を目指しました。

また牛乳パックや古紙をすぐに2tを集めることは難しく、今度は集めた牛乳パックの保管場所を探さなければならず、ありがたいことに、使われていない病院だった建物を無償で貸しても良いと申し出て下さるが現れ、保管場所の問題もクリアできました。

全国パック連の発足

1985年5月30日、牛乳パック再利用運動に賛同した全国各地の市民グループ(無農薬野菜の流通団体・共同購入団体・障がい者福祉施設・原発反対運動団体等)11団体によって、「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」(以下全国パック連)を発足しました。

捨てられていた牛乳パックを暮らしのレンズとして、環境・リサイクル・教育・文化・漉くし・交流といったさまざまな活動をしている団体の新しい形のネットワークがここに誕生しました。

<p>第130号 1985年(昭和60年)10月15日 火曜日</p>	
<h2 style="text-align: center;">全国会議で体験発表</h2> <p style="text-align: center;">牛乳パック回収運動の平井さん 「地域省エネの現状」</p>	
<p>平井 初美さん</p>  <p>平井さんは「牛乳パックを回収して、トレットペーパーに再生する資源リサイクル運動に、全国で初めての取り組みとして、大月の自グループ「たんぼ」の平井初美代表(妻)と共同で、この運動に立ち上げた。同グループは、経済企画庁が主催して大月に開催された「今年度の全国資源循環調査会」で、省エネキーマン奨励賞を受賞した。</p>	<p>研究会のテーマは「地域リサイクル活動の現状と問題点について」。全国に広がるリサイクル運動実践グループの中から、「たんぼ」は代表団体の一つに選ばれた。平井さんは「ごみ問題の面にお役所の人たちに、私たちの体験が聞いてもらえれば大変うれしかった。牛乳パック</p> <p>回収運動の技術的なことよりも、日々の生活をサポートする中で、この運動に立ち上げた。同グループは、経済企画庁が主催して大月に開催された「今年度の全国資源循環調査会」で、省エネキーマン奨励賞を受賞した。</p> <p>「たんぼ」は五十四年四月、同市内の主婦や学生らが集まり、子育てのあり方や人間らしい生き方を考え直す目的で結成された。現在の会員数は約五十人。</p> <p>牛乳パック回収運動は、それまでゴミとして捨てられていた空き箱が、高級パルプに再生されることを知って、昨年九月から取り組み、これまで約一年間に五万枚の空き箱を回収した。これらは製紙工場の協力もあって、一部がトレットペーパーなどに再生されているほか、心身障害者や精神障害者の授産施設にも送られ、トレットペーパーよりの商品価値の高い手すき紙の原料として、障害者の職場確保にも役立っている。</p> <p>平井さんは「牛乳パックの回収は単なる資源リサイクル運動ではなく、私たちの日常生活が便利で、快適で、効率的を求め、その環境をいかに犠牲にしているかを考えるきっかけになると願う」と語り、研究会での発表準備に追われている。</p>
<p>NC・MC工作機械、ロボット、工作用機器 切削工具、測定工具、電動工具、空気工具 空圧・油圧機器、荷役・運搬機器、配管工具 作業工具、伝導用品、砥石・研磨材、ボルト・ナット</p> <p>工作機械 総合商社 鉄工連 機械工具</p> <p>(在厚良富)(年中無休) 甲府・丸の内 ☎(37)1321</p>	

1985年10月16日には、経済企画庁主催の全国都道府県省資源・省エネルギー実務担当者研修会（於；宮崎市）にて、これまでの活動報告を行ったことがきっかけとなり、自治体関係者の視察の申し込みも来るようになりました。

見学者が訪れた際には、この保管場所に案内し牛乳パックや古紙の集め方を説明したり、診察室だった部屋には水道場もあるので、手漉きはがき作りを体験してもらったり、大いに活用させていただきました。

翌年の1986年7月、海外からの視察を受け入れることになりました。

「国際青年の村'86」（青少年育成国民会議・総務庁共催）に参加した、資源の再利用とごみ問題に関心のある外国の青年達15名が、大月市を訪れ、牛乳パック再利用について、意見交換を行ったり、手すきはがき作りを体験したり、国際交流を行いました。

当時の西ドイツから参加した青年は、「牛乳パックが再利用できるとは思わなかった。広く活用できるのを見て素晴らしいと思った。」と感想を述べ、新聞のローカル版にも取り上げられました。

牛乳パックの手漉きはがき作りは、現在でも大変好評ですが、紙漉き体験は単なる趣味の推奨ではなく、行うにはきちんとした理由がありました。先述のように、牛乳パックを製紙メーカーへのルートに乗せるには、集めるまでに長期間かかりますが、一人一人の協力が不可欠なので、牛乳パックリサイクルに関心を持ってもらう手法として、「家庭でもできるリサイクル、紙漉き体験」を紹介していました。同年行われた「かいじ国体」の選手へのお土産に、牛乳パックによる手漉きはがき

が取り上げられ、大月市内の小中学校でも、さかんに手漉きはがき作りが行われました。

紙漉きの原料である牛乳パックからのパルプづくりは、今でこそ紙好き交流センターの奥上代表の手作り機械によって容易となっていて、各地の福祉事業所で紙漉き製品の助力になっていますが、当時は全くの手探りでした。そのため牛乳パックのポリエチレン剥離の溶液の特許、溶液作りの窯を売りつける詐欺と思われる者が現れ、平井主宰をはじめ、いくつかの福祉作業所がその被害にあったりもしました。被害にあった方達が正確な情報が欲しいと、全国パック連に加盟されたこともありました。

（次号へ続く）

1986年



日本製紙(株)日本テトラパック(株)紙パックリサイクル協業についての説明会を開きました

6月19日付で、「飲料用紙容器リサイクルで日本製紙と日本テトラパックが協業」についてリリースされました。<https://www.nipponpapergroup.com/news/20240619.pdf>

未ざらし紙パック問題が各地に混乱をきたしている中で大手2社の協業発表は、今後の紙パックリサイクルシステムにどう影響するのか、全国パック連は速やかに関係団体、主要な紙パック受け入れメーカー、紙パックメーカーOB、乳業メーカーOB有志に意見を求めました。

◇パックマーク促進協総会（リリース2日前の6月17日開催）にて、出席された日本製紙（株）が協業について触れなかったことは理解するが、リリース後はできるだけ詳しい説明が欲しい。

◇冒頭、飲料用紙容器、以下「紙パック」のリサイクル率向上に向けた検討・取組について、幅広く協業することで合意しました。とあるが、容器包装リサイクル法上、飲料用紙容器、（紙パック）はアルミ付き紙パックを除外しているため、方向性②に示される項目は合意内容と齟齬が生じているのではないか。

◇方向性①のBKP（晒クラフトパルプ）100%を配合した原紙を継続して採用し、使用済み紙パックの高付加価値リサイクルを推進とあるが、方向性②の原紙以外の副構成物（樹脂、アルミ箔等）に関する産業用途でのリサイクルを推進、はアルミ付き紙パックを含んでおり、そうであれば現在のテトラパックが供給している未ざらし紙パックは協業違反にあたる容器となる、ただちに日本製紙より、未ざらしの利用中止を申し入れるべきではないか。

◇焼却時に発生するCO2はもともと木が大気中から吸収した炭素由来のため、大気中のCO2は増えないとみなすことができます。という文言は紙容器メーカーの言い分で、焼却自体なされるべきではないと考えます。

◇方向性①の日本が世界に誇れる分別回収システムを活用すべく→これまで市民が作り上げてきた日本の紙パックリサイクルスキームを「活用すべく」など大変遺憾です。

前回の王子製紙との件も同じですが、既存の回収ルートを大手メーカー同士の協業で利用するなど容認できません。協業でリサイクル率を求めるのであれば、新規開拓して新たなルートを模索すべきです。などの意見をいただき、取りまとめて日本製紙(株)紙パック営業本部に向けて意見の申し入れのメールを送るとともに、詳しく説明を伺いたい旨お伝えいたしました。

日本製紙(株)紙パック営業本部より対応していただけたとの回答がすぐであり、7月16日午後2時～ふじさんめっせにて、全国パック連とパックマーク促進協のアレンジということで説明会を開きました。

遠方の方のためにコアレックス信栄（株）のご厚意で、リモートでも参加できるハイブリットでの説明会を行うことができました。（会場への参加者8名、リモート参加者8名）

意見の中で、テトラパックのMIX回収の影響を被っている回収現場を担う団体の切実な訴えは日本製紙から見えたお二人以外の参加者にも響き、2社の机上で描いた構想図は説得力に欠いていると感じましたが、日本製紙が今回に限らず継続して協議していく姿勢を示されたことは評価したいと思います。



谷口台小学校にて出前授業を実施

相模原市立谷口台小学校の5年生の担任の先生からの依頼で、7月5日に出前授業を実施しました。コロナのパンデミックから4年ぶりとなる久々の出前授業でした。

5年生ではすでに牛乳パックを再利用した紙づくりに取り組んでいましたが、なかなかうまくできず、きちんとした作り方や牛乳パックのリサイクルについても学びたい、ということでした。

出前授業では牛乳パックのリサイクルの話や、マシンガンズによる啓発動画「牛乳パックリサイクルしないともったいない!」を見た後に、手漉きはがき作りに挑戦してもらいました。

自分たちが作っていた紙とは全然違う出来上がりに、子どもたちはびっくりしていたようです。



相模原市にてリサイクル講習会を実施

毎年恒例となっている相模原市での牛乳パックリサイクル講習会ですが、今回は橋本台リサイクルスクエアに場所を戻して、7月29日に実施しました。

プログラムも以前の通り手すきはがき作りと、ごみ収集車の乗車の2本立ての体験にしたためか12家族34名の参加を得ることができました。

コアレックス信栄(株)からも、再生製品を携えてお二人がお手伝いに来てくださいました。



持参した牛乳パックを回収ボックスに入れてもらうことも恒例となりました。



◎牛乳パックリサイクル・牛乳パック再利用マークについてのお問い合わせは
全国牛乳パックの再利用を考える連絡会 / 牛乳パック再利用マーク普及促進協議会
TEL.0554-22-3611 FAX.0554-56-9216 E-mail info@packren.org
ホームページ <http://www.packren.org> 〒401-0012 山梨県大月市御太刀 1-2-10